

第1回学校運営協議会 議事録



日付: 令和5年6月9日(金)

時刻: 15:25~16:50

司会: 熊谷道仁(定時制副校長)

出席者

赤石真美 委員(岩手日報社)、柴田勇一 委員(NHK盛岡放送局)、小田加代子 委員(フリーアナウンサー)、本山敬佑 委員(岩手大学)、吉田真雄 委員(YOSHIDA LIFE)、加藤源広 委員(NPO法人もりおかユースポート)、高瀬鮎子 委員(定時制PTA会長)、細越澤幸子 委員(通信制FTA会長)、三浦隆 委員(盛岡市立黒石野中学校長)、千葉仁 委員(同窓会長) 三田正巳(校長)、熊谷道仁(定時制副校長)、大槻英樹(定時制副校長)、藤田早苗(通信制副校長)、大津美保子(定時制総務主任)、永山信(通信制総務主任) 以上16名

資料確認および趣旨説明

司会より配付資料の確認と学校運営協議会(コミュニティスクール)についての説明。

1 校長挨拶

校長より委員に委嘱状交付ならびに本校の概況と学校運営協議会が導入された経緯説明。
卒業後のことを見据えて在学中に人と関わる力をつけさせる必要がある。地域の皆様のご支援を頂きたい。

2 令和5年度杜陵高等学校運営基本方針の承認と教育活動に係る説明

校長より本校の経営計画およびスクールポリシーの説明。

令和5年度杜陵高等学校運営基本方針は承認された。

続けて本校のユニバーサルデザインについて説明。

3 杜陵高等学校生徒会役員から学校紹介

オブザーバーとして定時制生徒会役員 6 名が参加。自己紹介に続き、生徒が動画とスライドを用いて学校紹介
生徒 2 名が杜陵高校への想いを発表した。

4 学校運営協議会委員と生徒の協働について

各委員より自己紹介と本校に期待すること、さらに協働のために何ができるかを発言していただいた。

以下、発言順に要旨記載。

(1) 赤石真美 委員（岩手日報社論説委員）

多様な想いを受け止める本校の姿勢に共感した。岩手日報社では 教育に新聞を取り入れる NIE に力を入れており今後、記事のデータベース検索やデジタル版紙面を読める学校向けプログラムをスタートするので活用してもらいたい。また、南極に長期滞在した記者や大谷翔平選手ら海外で活躍する県人取材などで海外経験が豊富な人材も多い。様々なキャリアを持つ記者を紹介できると思う。

(2) 柴田勇一 委員（NHK 盛岡放送局コンテンツ室長）

テレビの視聴者離れが進んでいる。いかに若い人たちに観てもらえるか、若い人たちとの接点を求めている。若者向けの番組を作成するとロイヤルカスタマーから苦情も来るが、チャレンジしている。NHK に意見等があれば遠慮なく寄せてほしい。

(3) 小田加代子 委員（フリーアナウンサー）

現在はフリーアナウンサーとしてエフエムいわての番組にも出演している。様々な人と出会い、どのような人生を歩んできたか伺ってきた。例えば岩手医大薬学部の「ドクターニッシー」こと西川泰正教授はこれまでの人生でいろいろな「回り道」を経験している。このような方々を紹介できる。また、おはなしの森まつぼっくり隊の活動について紹介があった。

(4) 本山敬佑 委員（岩手大学教育学部准教授）

なぜ学校に行くのがしんどいのかを知りたくて現職にある。杜陵高校の生徒の様子を見て、何を目指せばいいのか教えてもらった。通信制の MJP（盛岡少年刑務所）での授業は誰一人取り残さない授業である。学びによって傷ついたものを取り戻せるのも学びである。生徒には「自分にはいいところがある」を持って卒業してほしい。探究学習のサポート等可能であり、ゼミで学生を連れてくることや学園祭やサークルを活用することも可能であり、ニーズを一緒に見つけていきたい。

(5) 吉田真雄 委員（YOSHIDA LIFE 代表）

上田商店街協同組合専務理事を務めている。学校評議員会から引き続き務めている。今回この CS で大人と繋がる機会を利用して少しでも実現できればいいと思っている。上田商店街の夏祭りを一緒に盛り上げたい。生徒には多様な考えがあり、バランスを意識して校内外でよりよい事例を探していきたい。

(6) 高瀬鮎子 委員 (前 PTA 会長)

子ども二人が本校を卒業した。その二人の話を聞いていて思ったことや保護者の視点でお役に立てることがあればと思う。残念ながら途中で通えなくなってしまう生徒もいるので、さらに通いやすい高校になってほしいと思う。

(7) 細越澤幸子 委員 (前 FTA 会長)

子どもが4年かけて通信制を卒業、高校1年のときに他校で不登校になり、親子で悩んだ。本校の4年間で成長させていただいた。息子が生徒会執行部を頑張ると言ったとき、自分も頑張るきっかけになり FTA の役員を務めることを決めた。

(8) 千葉 仁 委員 (同窓会長)

50年前に卒業、当時は5クラスで集団生活を強制されたこともあった。杜陵高校は自分のペースで学べるのが良い。強制してもモチベーションは高まらない。生徒は簡単に変わらない。是非見守ってほしい。生徒個々の成長のための支援をしてほしい。学ぶことは働くことにつながる。生きていくため準備である。生徒には好きなことを見つめて、楽しく豊かに自信を持って進んでほしい。

(9) 加藤源広 委員 (NPO 法人もりおかユースポート理事長)

ニートやひきこもりの若者の自立支援をしている。こども食堂・学習支援等を行っている。小中で不登校だった生徒が就職するために最初に考えなければいけないのが高卒の資格である。そういう場面で杜陵高校に頼らざるをえない。教育のセーフティネットである。協力できることがあればいろいろ協力したい。特にキャリアサポートで自立に向かってどう動いていいかわからない場合や職場体験・ボランティア体験等に活用してほしい。昨年度からヤングケアラーの支援も行っている。

(10) 三浦 隆 委員 (盛岡市立黒石野中学校長)

今の学校が今の時代に合わなくなってきている。今は多様性をどう尊重し、支援していくかが盛んに問われている。自分の意志や目標を持っている皆さん(生徒)の姿を拝見し、今に求められている姿と感じた。それぞれが求めているものをつなげることが教育である。

5 会長、副会長選出

会長に吉田真雄 委員、副会長に小田加代子 委員を選出した。

次回の会議

令和6年2月9日(金) 本校にて実施

ただし、臨時会議の場を設け、交流の詳細を検討することもある。

6 閉会

(備考) 令和5年6月14日(水) 岩手日報と盛岡タイムスに記事掲載

令和5年6月15日(木) 岩手日報1面「風土計」に記事掲載